



学校教育目標 「学び合い」 「個性」 「自立」

- | | |
|--|-----|
| (1) 生きるための基本的な生活習慣・学力を身につける生徒を育てます。 | 【知】 |
| (2) 自分のまわりの人とふれあい、お互いを大切にする心を育てます。 | 【徳】 |
| (3) 自他の生命を尊重し、健康でたくましい体を育てます。 | 【体】 |
| (4) 社会の一員として自覚をもち、自分の生き方を決められる生徒を育てます。 | 【公】 |
| (5) 体験を通して自分を豊かにし、社会の変化に柔軟に対応できる生徒を育てます。 | 【開】 |

「離れがたい仲間」

校長 井上菜穂子

春の足音が近づいてきています。今年の冬は比較的暖かく、冬野菜がよく育って、安くおいしくいただいています。栽培収穫の手間は変わらないのに、生産者さんはたいへんだらうなあと思いながら。暖かいおかげか例年インフルエンザが気になる時期ながら、あまり広がらずありがたいです。ただ、一方で新型コロナウイルスについては気になるところです。県や市に準じて緑区でも、主催する運動部の公式試合は見合わせていますが、その他の活動はどうするのか、情報を精査して、必要な措置はとっていきたいと思います。市からの指示については、今後の動静しだいで変わっていくことも考えられますので、随時お知らせしていきます。

さて、3年生は受験を終え、これからいよいよ外の世界へ船出していきます。出願や試験日など、お天気が心配な日もありましたが、緊張しながらも自分で頑張る準備したり、出かけていく様子を頼もしく見ていました。今卒業準備期間に入りました。球技大会や百人一首大会等元気に取り組み、先日は外部講師の方に国際理解教育として、戦争や人権に関わる貴重なお話をいただきました。どの国の人だからといういわれのない差別については、今の日本の状況についても警鐘を鳴らしていただいたお話だなと感じました。

1, 2年生は学年末テストと市の学習状況調査が続き、ちょっとうんざりといったところでしょうか。それでも元気な挨拶の音が響き、変わらない笑顔を見せてくれています。いよいよ各教科のまとめの時期となりました。それぞれの課題を確実に仕上げ、その学年として果たすべきことにきちんと向かい合い、気持ちよく学年を終え、新年度を迎えてほしいと思います。

この卒業や進級の時期を迎え、今の自分の周りをぐるりと見回してみてください。クラスの仲間がいます、部活の仲間がいます。居心地の良い「離れがたい仲間」でしょうか？4月にスタートするとき、新しい友人「新友」から「親友」そしてさらに心の友「心友」へというお話をしました。



自分と他との関わり方をこれまで大切にしてきた人は、きっとずっと一緒にいたくなる「離れがたい仲間」づくりをしてきたことと思います。あと一か月（3年生は約10日）、名残惜しい学級づくりをしていってください。縁があって今のクラスになり、担任の先生と出会い、一年間過ごしてきました。みんなで共通の喜びや悔しさ、楽しかったことも時には叱られたこともあったかもしれません。自分たちの過ごしてきた日々は自分たちだけの宝物です。他と比べるものではありません。自分たちの宝物にあと少しだけ最後の磨きをかけていきましょう。

<横浜市個別支援学級合同学芸会> 1月30日

最後の合同学芸会 3年 田中 秀幸

1月30日に、西公会堂で、合同学芸会がありました。今年は、ワールドオーダーの「インペリアズム」の曲でダンスと、B'zの「兵、走る」で組体操をやりました。練習では、手と足とつま先を揃えることと、みんなにくっつけることが上手く出来なくて、とても悔しかったです。けれど、みんなと協力して、何度も練習を取り組むことができたので、とてもよかったです。本番では、練習通りに手と足とつま先を揃えて、みんなにくっつきながら周りを見て演技を披露することが出来て、とてもよかったです。

学芸会では、みんなと協力して、練習通りにダンスと組体操をやり遂げることが出来ました。そして、ひとつのものを、みんなと協力して完成させる素晴らしさを学びました。このことを、これからの高校生活に活かしていきたいです。



<2年国際理解教室・学年道徳>

2月6日(木) 5・6校時

2年生の学年道徳として、国際理解教室を開催しました。公益社団法人「セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン」から、豊田 光明先生を講師にお招きし、お話をうかがいました。豊田先生はモンゴルでの派遣活動についてや、ご自身のこれまでの進路等を生徒の目線でお話くださいました。お話の最後には、中学生に「大切にしてほしい4つのこと」を伝えてくださいました。①自分の想いや考えを素直に、正確に伝えること ②他人と比べないこと。自分を過少評価しないこと。 ③興味があること、好きなことに時間をかけること ④やろうかどうしようか迷ったことは、挑戦してみることに
生徒感想を紹介します。

- ・子どものための人権が40個以上もあるなんて驚いた。少しでも学校で学べる子どもが増える世界になるといいなと思いました。
- ・NGOにたくさんの種類があることを知りました。私も人々の役に立てる、助けられる仕事がしたいと考えているので、もっと知りたいと思いました。毎日学校で教育を受けられることは、たくさんの人々の支えがあることがわかりました。食事や家族があることが、全ての子どもにとって、当たり前になる世の中にしたいと思いました。
- ・豊田さんは中学卒業後から留学に挑戦したと聞いて、自分も「やりたい」と少しでも思ったらまずは挑戦してみたい。自分の能力を周りの人と比べないように、自分自身の力をつけて将来に生かしたい。

<新年書き初め展>

横浜市総合文化祭書き初め展が、1月中旬、市民ギャラリーで、緑区中学校書き初め展が1月18日～1月30日、緑図書館ギャラリーで開催されました。

本校からは、3年 平見 里彩さんの作品が横浜市の書き初め展に、1年 加山 咲妃さん、2年 石黒 梨了彩さん、3年 霞流 華恋さんの作品が緑区の書き初め展に出品されました。どの会場もたいへん盛況で、緑図書館からは、作品を見た方から「清新な気持ちが伝わってきました。(60代)」や「皆、力強く上手く書けていました。日本の風習が続くといいですね。(40・50代)」などの感想もいただいています。現在作品は、印刷室前に掲示されています。



人とのかわり方を考える 『e ネット安心講座』

現在、インターネットや携帯電話は、子どもたちが簡単に使える環境にあり、トラブルも多発しています。そのため、総務省が、文部科学省及び通信事業者等と連携し、インターネットの安心・安全な利用に向けた全国規模の出前講座を実施しています。

今回は、マルチメディア振興センターから、市村 暁恵 (いちむら あきえ) さんを講師としてお迎えし、2年生とご希望の保護者の方を対象に、2年生保健委員の運営 (司会: 副委員長 立石一晃さん、講師紹介: 書記 高橋一晟さん、お礼の言葉: 委員長 島花音さん) で講演会を行いました。

～講演内容より～

- 一番大切なことは『ルール作り』…使わない場所と時間を決めること。未成年者である子どもの責任を取るの、自分ではなく保護者である。ぜひ、家族とルール作りを。
- ネット上に秘密や隠し事はない…自分の家の玄関の外側に貼り出しているものだけネットに挙げる。公開する前によく考えて。面と向かって言えないことは書き込まない。ネットの世界は消せない。デジタルタトゥーと言われる。
- 位置情報オンの書き込みは、長津田駅前に立ち、演説しているのと同じ。設定を確認。
- 『ここをクリック』…簡単で高額なものは犯罪につながる。1回きりのつもりが脅されて何度も繰り返される。
- シェア・チェーンメール←基本うそ わいせいつ画像…受け取ると被害者だが、送ると加害者になる。
- 著作権、肖像権の認識不足で、被害総額20億円の訴訟を起こされたケースもある。
個人情報に関する方が海外と日本では違う。規約を確認。ツイッター (アメリカ) ライン (韓国) また、何か起きてしまった場合、相談したくても、カスタマーサービスは、AIによるチャットが基本。
- 依存…リビングで充電など、物理的に距離を置くこと。

生徒の様子は、感想も会場での記入でしたが、しっかりと自分が感じたことを記入したり、講演終了後も講師の先生に質問をするなど、積極的に学ぶ姿勢が見られました。また、すでに、家庭でのルールを決めている家庭もあり、講師の先生がとても感心しておられました。

